

平成26年度 学校評価報告書1 (計画段階 ・ 実施段階)

いずれかを○で囲む

学校名	福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針	今年度の重点目標	評価(総合)	
学校長	ふりがな	ふるかわ あきら	(1)「福岡市立高等学校活性化に向けた取り組み方針-今後の5年間を見据えて-」に示されている具体的方策の推進に組織的に取り組む。 (2)教育目標達成のため、学習指導、進路指導、生徒指導等に、各学科、各部、各教科、各委員会が連携・協力した組織的・機能的な学校運営を行う。 (3)工業高校の「ものづくり」をはじめ、魅力ある諸教育活動を通してスペシャリストを育て、産業界や地域社会から求められ、期待される生徒を育成する。 (4)本校諸教育活動を通して社会人として求められる挨拶や礼儀、マナー、言葉遣い、規律、自己表現力、コミュニケーション能力、公德心等を身につけさせる。 (5)生徒の学力や能力を伸ばさせ、安心・安全に過ごせる学校生活を保障する。 (6)体罰・セクハラ防止、飲酒運転の厳禁、適切な情報管理、個人情報保護などを徹底し、信頼される学校経営を行う。	”生徒を磨き、学校を磨く” 学校の主体である生徒を磨く事と、生徒を磨くために必要な環境を整える事を本年度の重点目標とする。 (1)生徒を磨く ・生徒一人ひとりにキメ細かな教科指導を行い、欠点取得者や原級留置者を減らす。 ・様々な背景や課題を抱えた生徒に対し、多くの教員が関わることで学校がその生徒にとって安心できる場所となる状況をつくる。 ・規律ある生活態度の定着や心に響く生徒指導で、福岡市内の高校生の模範となる生徒の育成を目指す。 (2)学校を磨く ・まず入試から類・コース制を見直し、カリキュラムの見直しを含めた新しい博多工業高校への改革に着手する。 ・各学科の魅力や特徴を中学生や市民にアピールするための取り組みを強化する。 ・部活動やものづくり大会等のコンテストにおいて結果を残すことで、博多工業高校の名を高める。	学校自己評価	学校関係者評価
氏名	古川 彰	B			B	
校長本校在任年数	2年					
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	ふくしま さだあき			B	B
氏名	福島 貞昭					

昨年度の成果と課題	◎成果:学校内部評価を通して、生徒の現状の把握と解決の方策を協議することができ、学校関係者評価により、今後の学校運営についてご意見をいただいた。 ◎課題:次の課題が挙げられた。①資格取得や基礎学力の向上②日常的なモニター評価による開かれた学校づくりの推進③学校行事(体育祭・公開授業など)をさらに地域に密着したものにする方策④就職指導の充実
-----------	---

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的方策					
教育課程・学習指導	基礎学力の向上	ICTを活用したわかりやすい授業改善の工夫	B	昨年度より欠席・遅刻者の人数が半減し、成績優秀者は増加し不振者は減ってきている。朝補習等を含め指導の成果が得られ生徒も落ち着いてきている。 昨年度、年間指導計画に観点別評価を取り入れ、今年度は各教科1科目観点別評価を取り入れた基準作りを進めている。	B	朝補習等、毎日の地道な指導で基礎学力が向上し、成績不振者が減少、欠席者や遅刻者の減少にも影響している。	基礎学力向上のためにも授業規律等をさらに充実させる必要がある。そのためにも教諭各人の意識の向上と共通認識・情報共有を進めていきたい。経験者研修と合わせてICT活用授業を推進していく。観点別評価の各科目への検討・協議を進める。
	研究授業・授業参観の充実および評価方法の改善検討	基礎学力の向上を目指した朝補習の実施およびSPI試験に向けた学力向上の取り組み 研究授業の実施(ICT活用授業やSPP授業など) 授業参観や実習見学の実施(公開) 新学習指導要領に応じた評価方法の検討と改善を行う	A				
生徒指導	規律ある生活習慣の確立	問題行動等の未然防止に向けた生徒指導の強化	A	昨年度と比較すると、問題行動は激減し、全体的に生徒達が落ち着いてきている。自転車マナーについても、2学期に運転講習とテストを実施し、基準を満たした生徒に運転免許証を交付するようにしてから、生徒たちの意識も以前とは比べ物にならないくらい高くなり、苦情も少なくなった。 生徒会役員がリードして、各学校行事を盛り上げているため、先生方の負担が少なくなった。	B	日頃からの指導が浸透し、生徒の規範意識が高まり、問題行動も減少している。	今年度、生徒は年間を通じて落ち着いた状況であった。来年度以降も継続できるように、一層全職員で登下校指導等に力を入れたい。生徒会と部活動が協力して学校行事や地域のボランティア活動等を活発に行いたい。そのためにも部活動加入率を上げたい。
	生徒会活動の推進	全職員による登下校指導(挨拶・自転車マナー)および風紀指導の日常的な徹底指導 生徒会役員による学校行事の運営および生徒全員の主体的関わりの推進 部活動の活性化および加入率の向上を図る	B				
進路指導	確かな進路実現(就職指導)	新たな求人開拓に向け積極的な企業訪問を行う	A	産業界の人材確保が追い風となったこともあって、11月下旬に全員の就職内定を達成することができた。引き続き企業との連携と新たなパイプづくりに取り組みたい。 本校の課題としては、基礎学力向上の取り組みをいっそう強化し、全員一次応募での進路実現に挑みたい。進学指導についても同様で、学力向上の補習などの充実を図っていきたい。	A	生徒たちの進路(就職・進学)が保障され素晴らしいことです。	就職後の良好なコミュニケーション力の構築と早期離職防止の手立てを模索することは、キャリア教育を推進うえで重要であるが学校教育の中で、具現化して行くことが臨まれている。従って、全職員で連携し組織的に推進して行かなくてはならないと考える。
	確かな進路実現(キャリア教育と進学指導)	中途離職者を防止し、企業との信頼関係の強化を図る 進路ガイダンスの充実による進路実現 学校間(大学・専門学校等)連携の推進	A				
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上	課題研究発表会の毎年実施と授業の充実および各教科特色ある教育活動の実施	A	各学科の課題研究代表生徒による校内発表会(選考会)を実施し、その優秀学科が福岡県工業クラブ連盟生徒研究発表会に出場し、4位の成績を修めた。溶接競技会に出場し、県内5位の成績であった。ジュニアマイスター顕彰ゴールド6名、シルバー24名とほぼ目標を達成した。企画委員会の運営により、類コース制の見直しを始めとする、様々な校内的な活性化に向けての検討を行うことができた。	B	資格取得という目標達成に全科をあげて取り組む努力がなされている。	文部科学省や厚生労働省などの主催する様々なプログラム(企画)に取り組み、外部(大学や企業)等の連携を図り、教員の技術力及び指導力の向上や、生徒の専門に対する意識の高揚や資格取得の向上を目指したい。工業教育推進のための、様々な検討を企画委員会の運営を通して行う。
	資格取得・各種検定合格率の向上	ものづくりコンテスト等での上位入賞と競技会への積極的参加 プログラムに則った指導の確立と取り組みの推進 主幹教諭を中心とした指導体制の充実を図る	B				
学習環境	中途退学者・転学者の減少	教育相談委員会の定期開催と気になる生徒との面談活動の実施およびSCとの連携	A	定期や臨時の教育相談委員会を開催し、生徒状況の把握といじめの防止に努めた。生徒や保護者との面談とSCやSSWとの連携を通して支援策を練ることができた。教員間での情報共有が課題。 自分たちの実践発表を取り入れる等研修会を工夫した。また、「たより」等で啓発活動を行った。「人権に関わる事象」が示す課題を大切に取組続けているが、一人一人の具体的実践に十分に結びついているとは言い難い。	A	生徒の現状を把握するための手立てを工夫し、様々な観点から情報を収集し、支援を検討する。教員間の情報共有を図る連絡会の開催を増やす。また、人権教育の推進については、個人、各教科、各科、各部での実践の強化と考える。	
	人権教育の推進	中途退学者・転学者の前年比50%の実現 職員・生徒の人権意識及び実践的行動力の向上を目指した研修会や啓発活動の充実 人権教育特設授業をはじめ生徒の実態に即した人権教育の推進および望ましい言語環境の確立や仲間づくりへの支援	A				B

※ 学校自己評価は、5段階評価(S…目標を大幅に上回る達成度,A…目標を上回る達成度,B…目標どおりの達成度,C…目標を下回る達成度,D…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(S~D)で評価すること。